



新国立劇場 2021/2022 シーズンオペラ

C.A. ドビュッシー

ペレアスとメリザンド

新制作

Pelléas et Mélisande

2022年7月2日(土)~7月17日(日)

会場: 新国立劇場オペラパレス 2022年5月21日(土)前売開始



2016年エクサンプロヴァンス音楽祭公演より ©Patrick Berger/ArtComPress

シーズン締めくりに真打ち『ペレアスとメリザンド』登場！

フランス・オペラの傑作を、大野和士指揮、英国の鬼才ケイティ・ミッチェル演出で

大野和士芸術監督4年目の2021/2022シーズンの締めくりに、大野の注力するフランス・オペラからドビュッシーの傑作『ペレアスとメリザンド』が登場します。ドビュッシー唯一のオペラ『ペレアスとメリザンド』は、閉鎖的な城の愛憎の日々の物語が、神秘的、象徴的に、緊張感のうちに綴られるフランス印象主義の傑作。エクサンプロヴァンス音楽祭で初演され、極めて今日的な演出と世界的話題となった、英国の鬼才ケイティ・ミッチェルの演出が登場するのも舞台芸術ファン注目の的です。

大野和士のもと、リヒター、ヴルシュ、ナウリら話題の歌手が集結

モネ劇場やリヨン歌劇場でフランス・オペラを数多く手がけてきた大野和士芸術監督自らが指揮する『ペレアスとメリザンド』には、この作品の世界随一の歌い手であるリヒター、ヴルシュ、ナウリと、大野と共演を重ねる信頼厚い歌手を招聘。浜田理恵、妻屋秀和らの日本人歌手も揃い、現在望みうる最高の布陣となりました。フランス・オペラの神髄を伝える、音楽ファン必聴の公演です。

* 新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を講じた新時代の生活様式を考慮した演出により上演いたします。

* 招聘キャストにつきましては、出入国制限の状況により変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

<資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

フランス印象主義の傑作『ペレアスとメリザンド』をシーズンの締めくりに新制作

フランス印象主義の作曲家ドビュッシーの唯一のオペラ『ペレアスとメリザンド』。フランス独自のオペラを目指したドビュッシーは、独特の語法を用いて、メーテルリンクの戯曲に描かれた光や水、霧や風といった自然の息吹を色彩感と陰影に富んだ音楽で表現し、フランス語の韻律と音楽を融合させて、登場人物の苦悩や感情の起伏を抑制したタッチで濃密に描きました。閉鎖的な城の愛憎の日々の物語が神秘的、象徴的に緊張感のうちに綴られ、幕切れでは後奏がもたらす静けさがドラマを浄化します。

ブリュッセル・モネ劇場やリヨン歌劇場でフランス・オペラを数多く手がけてきた大野和士芸術監督は、新国立劇場でも着任以来、年1本のフランス・オペラを欠かさず企画し、その魅力を伝えることに注力してきました。4年目のシーズン締めくりの新制作に、フランス音楽の代名詞ドビュッシーが書いた傑作『ペレアスとメリザンド』がついに登場。フランス・オペラの神髄を伝えるまたとない機会です。

英国の鬼才ケイティ・ミッチェルの今日的な女性観が光る、秀逸なプロダクション

演出のケイティ・ミッチェルは演劇大国イギリスで演劇、オペラの演出で活躍し、独自の感性と論理がもたらすリアリティが高く評価される演出家。ミッチェルの『ペレアスとメリザンド』は、近年最も尖ったオペラが上演されることで注目されるエクサンプロヴァンス音楽祭で2016年に初演されました。このプロダクションでは、中世の架空の城を舞台とした象徴的な物語が、ある一家へやって来た女性の密室の夢想となって、現代的なドラマに蘇ります。ミッチェルは原作の象徴的なイメージを活かした神秘的な空気を基調としながら、現代的な女性観とリアリズムに基づく心理的な解釈を提示し、今日の名演出と絶賛を博しました。イギリスきっての先鋭的な活動で知られるケイティ・ミッチェルの秀逸な舞台は、すべての舞台芸術ファン必見です。



大野和士のもと、リヒター、ヴルシュ、ナウリら話題の歌手が集結

大野和士芸術監督自らが指揮する『ペレアスとメリザンド』には、新世代を代表するテノール、ベルナルド・リヒター、フランス音楽の旗手として活躍し、世界中でメリザンドを歌っているカレン・ヴルシュ、パリ・オペラ座やメトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラで活躍するバリトン、ロラン・ナウリら、『ペレアスとメリザンド』の世界随一の歌手であり、大野と共演を重ねる信頼厚い歌手たちが世界から集結します。浜田理恵、妻屋秀和らの日本人歌手も大野和士自信のキャスティング。今望みうる世界最高の布陣による『ペレアスとメリザンド』は、音楽ファン必聴の公演です。

<「ペレアスとメリザンド」あらすじ>

【第1部】狩の途中で道に迷ったゴローは、水辺で泣く女性メリザンドを見つけ連れて帰る。半年後、ゴローは異父弟ペレアスへ、祖父の老王アルケルから結婚の許しを得て欲しいという手紙を送る。王はゴローの新しい妻を迎え入れることとする。城にやって来たメリザンドとペレアスが出会い、二人は彼女の乗ってきた船が去る光景を見つめ言葉を交わす。



ペレアスは庭園の「盲人の泉」にメリザンドを誘い、その力について語る。メリザンドはゴローからの結婚指輪を泉に落としてしまう。その瞬間、ゴローは森で落馬し深手を負っていた。居室で夫を介抱するうち、メリザンドはこの城では心が休まらなると訴える。その時妻の手に指輪がないと気付いたゴローに激しく追及され、メリザンドはゴローの息子イニョルドに貝を拾っているうち失くしたと嘘をつく。ゴローの命令で、メリザンドはペレアスを伴い、恐怖に震えながら海辺の洞窟へ赴く。

月光の晩、寝室でメリザンドが髪を梳くと、通りかかったペレアスはその長い髪に陶然となる。そこへゴローが来て、二人の振る舞いを責める。翌日、ゴローはペレアスを地下に連れて行き、身重のメリザンドを刺激しないよう言い渡す。ゴローはイニョルドに、ペレアスとメリザンドの様子について詰問し、母の寝室を覗くよう強要する。

【第2部】アルケルとメリザンドが語る部屋へ、嫉妬心に駆られたゴローが来て、妻の髪を掴んで引き倒す。夜、いよいよ旅立つというペレアスに請われ、メリザンドは泉に赴く。月光の下で二人はついに愛を告白し、口づけを交わす。そこへゴローが現れ、ペレアスは殺される。

逃げ延びたメリザンドは女の子を産み落とし、死の床にあった。ゴローは妻に許しを請いながらも、弟との関係を執拗に問い始める。メリザンドから真実が語られることはない。アルケルがゴローを制し、赤子をメリザンドに抱かせようと渡す。メリザンドが息を引き取り、皆取り残される。



※本プロダクションでは2部構成で上演されます。

<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】大野和士**ONO Kazushi**

東京生まれ。東京藝術大学卒。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年トスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。世界各地でオペラ公演及びシンフォニーコンサートで聴衆を魅了し続けている。90～96年ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08年モネ劇場音楽監督。12～15年アルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、08～16年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団、バルセロナ交響楽団音楽監督。22年9月にはブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督に就任予定。オペラでは、07年にミラノ・スカラ座にデビューし、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グラインドボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭などへ出演。渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年にはリヨン歌劇場がインターナショナル・オペラ・アワード「最優秀オペラハウス2017」を獲得し、フランス政府より芸術文化勲章オフィシエ、リヨン市からリヨン市特別メダルが授与された。18年9月より新国立劇場オペラ芸術監督。新国立劇場では98年『魔笛』、10～11年『トリスタンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トウランドット』、20年『アルマゲドンの夢』、21年『ワルキューレ』『カルメン』、子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ『Super Angels スーパーエンジェル』、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』を指揮している。

**【演出】ケイティ・ミッチェル****Katie MITCHELL**

演劇とオペラの演出で活躍するイギリス人演出家。ロイヤル・シェイクスピア・シアター、ロイヤルコート劇場、ナショナルシアターでアソシエイト・ディレクターを務める。最近の主な演出作品に、オペラでは、英国ロイヤルオペラ『New Dark Age』『ルチア』『Lessons in Love and Violence』、バイエルン州立歌劇場『青ひげ公の城』、パリ・ブッフ・デュ・ノール劇場『Zauberland』、エクサンプロヴァンス音楽祭『The House Taken Over』『アルチーナ』『ペレアスとメリザンド』『ナクソス島のアリアドネ』、英国ロイヤルオペラ、エクサンプロヴァンス音楽祭『Written on Skin』(世界初演)、オランダ国立オペラ『イエヌーフア』、オペラ・コミック座『ミランダ』、ベルリン州立歌劇場『Le Vin herbé』『Neither』、ザルツブルク音楽祭、ベルリン州立歌劇場『Al gran sole carico d'amore』など、演劇ではシャウビューネ『オーランドー』『Shadows (Eurydice Speaks)』『Ophelias Zimmer』『Lungs』『The Yellow Wall Paper』『令嬢ジュリー』、ニューヨーク・ザ・シェッド『Troy』、ハンブルク・シャウシュピールハウス『The Rest Will Be Familiar to you from Cinema』『Reisende auf einem Bein』『Happy Days』『Sleeping Men』『Bluets』、ブッフ・デュ・ノール劇場『La Maladie de la Mort』、トネルグループ・アムステルダム『The Maids』、ロイヤルコート劇場『Anatomy of a Suicide』、ザルツブルク音楽祭『Forbidden Zone』、ケルン・シャウシュピールハウス『Reise durch die Nacht』『Rings of Saturn and Wunchkonzert』、ナショナルシアター『When We Have Sufficiently Tortured Each Other』『Cleansed』『Waves』『Women of Troy and Iphigenia at Aulis』などがある。2009年、大英帝国勲章OBE受勲。19年、インターナショナル・オペラアワード最優秀演出家賞受賞。新国立劇場初登場。

**【ペレアス】ベルナル・リヒター(テノール)****Bernard RICHTER**

スイス出身の新世代を代表するテノール。近年はミラノ・スカラ座への出演が続き、シュペルトのオペラ『フィエラブラス』タイトルロール、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『イドメネオ』タイトルロールなどに出演。イドメネオ役はウィーン国立歌劇場でも歌っている。また、『ペレアスとメリザンド』ペレアスはウィーン国立歌劇場、ワルシャワ大劇場、リヨン歌劇場で出演している。このほか、ヴェルビエ音楽祭『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、オランダ国立オペラ『ロデリンダ』グリマルド、アン・デア・ウィーン劇場『さまよえるオランダ人』エリック、『ベアトリーチェとベネディクト』ベネディクト、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオなどにも出演。ベルリン交響楽団、MDRライブツィヒ放送交響楽団、ストラスブール管弦楽団、RAI交響楽団などのオーケストラへの客演も多い。新国立劇場初登場。

**【メリザンド】カレン・ヴルシュ(ソプラノ)****Karen VOURC'H**

現代曲で特に知られるフランスのソプラノ。世界各地の歌劇場やコンサートに出演し、サーリアホ、デュパサン、コネソンらの作品を演奏しており、中でもハヤ・チェルノヴィン作曲『Infinite Now』は2017年Opernwelt誌年鑑の最優秀プレミアム作品に選出された。オペラの出演も多く、中でも『人間の声』『ペレアスとメリザンド』では、パリ(オペラ・コミック)、ロンドン、ケルン、ストックホルム、ハンブルク、東京(NHK 交響楽団)、サンクトペテルブルクなど各地で絶賛されている。録音にはグリーグ、シベリウス、ドビュッシーの歌曲、モンテヴェルディのカンタータ、リヨン管弦楽団と共演したラヴェルの歌曲、オペラ・コミック『ペレアスとメリザンド』、ストラスブール・フィルと共演したサーリアホの『4つの瞬間』『Emille Suite』などがある。新国立劇場初登場。



【ゴロー】ロラン・ナウリ(バリトン)**Laurent NAOURI**

マルセイユ国立オペラ歌手研修所(CNIPAL)、ギルドホール音楽演劇学院で学ぶ。バロックから現代オペラまで約40役に及ぶ広いレパートリーを持ち、『ホフマン物語』悪役4役、『ベレアスとメリザンド』ゴロー、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、『ファルスタッフ』タイトルロール、『サンドリヨン』パンドルフ、『炎の天使』ルプレヒトなどでメトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、ミラノ・スカラ座、リヨン歌劇場、エクサンプロヴァンス音楽祭など世界の歌劇場、音楽祭に出演。最近ではメトロポリタン歌劇場『ロメオとジュリエット』キャピュレットと『ホフマン物語』悪役4役、英国ロイヤルオペラ『ニシダの天使』(ドニゼッティ)ドン・ガスパール、シャンゼリゼ劇場『椿姫』ジェルモン、リヨン歌劇場、ジュネーヴ大劇場『劇場の都合、不都合』マンマ・アガタ、パリ・オペラ座『蝶々夫人』シャープレス、『ホフマン物語』悪役4役などに出演している。新国立劇場初登場。

**【アルケル】妻屋秀和(バス)****TSUMAYA Hidekazu**

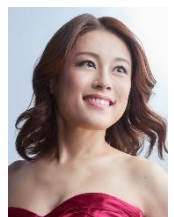
東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライブツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を80役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイダ』ランフィス、『ナブッコ』ベルの祭司長、『夜叉ヶ池』鉢蔵、『リゴレット』スparaフチーレ、『ヴォツェック』医者、『アラベッラ』ヴァルトナー伯爵、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『マノン・レスコー』ジェロント、『ばらの騎士』警部、『ラインの黄金』ファフナー、ファーゾルト、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンドなど出演多数。18/19シーズンは『ファルスタッフ』ピストーラ、『タンホイザー』領主ヘルマン、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『トゥーランドット』ティムール、20/21シーズン『夏の夜の夢』クインス、『フィガロの結婚』バルトロ、『イオランタ』ルネ、『カルメン』スニガに出演。21/22シーズンは『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・フォルツ、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵にも出演。二期会会員。

**【ジュヌヴィエーヴ】浜田理恵(ソプラノ)****HAMADA Rie**

東京藝術大学卒業、同大学院修了。パリに留学。第19回パリ国際音楽コンクールオペラ部門第1位。シャトレ座『アリアーヌと青髭』でオペラ・デビューし、パリ・オペラ座『火刑台上のジャンヌ・ダルク』聖母マリア、シャトレ座『北緯60度線』(世界初演)マリア、トゥールーズ歌劇場、リヨン歌劇場『ラ・ボエーム』ミミのほか、トゥールーズ、アヴィニョン、トゥールなどで『トゥーランドット』リユー、『皇帝テイトの慈悲』ヴィテツリア、『ファウスト』マルグリットなどに出演。ピエール・ブーレーズ率いるアンサンブル・アンテルコンタンポランとはヨーロッパツアーを行い、その後ザルツブルク音楽祭でコンサートと録音を行う。日本ではびわ湖ホール『ドン・カルロ』エリザベッタ、『ジョヴァンナ・ダルコ』タイトルロール、兵庫県立芸術文化センター『蝶々夫人』タイトルロールなどに出演。新国立劇場では『トゥーランドット』リユー、『カルメン』ミカエラ、『ホフマン物語』アントニア、コンサート・オペラ『ベレアスとメリザンド』メリザンドに出演している。

**【イニョルド】九嶋香奈枝(ソプラノ)****KUSHIMA Kanae**

東京藝術大学卒業。新国立劇場オペラ研修所第4期修了。文化庁派遣在外研修員としてミラノに留学。2005年にはギリシャ・アテネにて『魔笛』(ミヒヤエル・ハンペ演出)に招聘され出演。第54回全日本学生音楽コンクール第1位、HIMESコンクール第1位。新国立劇場では『愛の妙薬』ジャンネッタ、『フィガロの結婚』スザンナ、バルバリーナ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『パルジファル』小姓1、『ジークフリート』森の小鳥、『魔笛』パパゲーナ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『ドン・パスクワレ』ノリーナなどに出演している。二期会会員。

**【医師】河野鉄平(バス)****KONO Teppei**

クリーブランド音楽院大学卒業、同大学院修了。2003年サンフランシスコオペラ・メローラオペラプログラム参加。同年『フィガロの結婚』フィガロでオペラデビュー。06年、シカゴ芸術大学ディプロマコース及びシカゴ・オペラ・シアター研修プログラム修了。同年シンガポールでも『フィガロの結婚』に出演。アメリカで23年間過ごし、帰国後は17年小澤征爾音楽塾『カルメン』スニガ、18年セイジ・オザワ松本フェスティバル『ジャンニ・スキッキ』ベツトなどで好評を博す。これまでに『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール/騎士長、『カルメン』エスカミーリョ、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『シモン・ボッカネグラ』フィエスコ、『アイダ』ランフィス、『ファウスト』(ハイライト)メフィストフェレス、『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公爵などに出演。21年には二期会『タンホイザー』ラインマル、『魔笛』弁者、武士2に出演。新国立劇場では20年『夏の夜の夢』パック(台詞役)に、22年1月『さまよえるオランダ人』オランダ人出演し称賛を集めたのに続き、22年4月『魔笛』ザラストロにも出演した。二期会会員。



新国立劇場 2021/2022 シーズンオペラ
 C.A. ドビュッシー ペレアスとメリザンド 新制作
 Claude Achille DEBUSSY / Pelléas et Mélisande
 全5幕〈フランス語上演／日本語及び英語字幕〉

【公演日程】2022年7月2日(土)14:00／6日(水)18:30／9日(土)14:00／13日(水)14:00／17日(日)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:27,500円・A:22,000円・B:15,400円・C:8,800円・D:5,500円・Z:1,650円

【前売開始】2022年5月21日(土)

※新型コロナウイルス感染症拡大予防対策を講じた新時代の生活様式を考慮した演出により上演いたします。

※招聘キャストにつきましては、出入国制限の状況により変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

指揮	大野和士	ペレアス	ベルナール・リヒター
Conductor	ONO Kazushi	Pelléas	Bernard RICHTER
演出	ケイティ・ミッチェル	メリザンド	カレン・ヴルシュ
Production	Katie MITCHELL	Mélisande	Karen VOURC'H
美術	リジー・クラッチャン	ゴロー	ロラン・ナウリ
Set Design	Lizzie CLACHAN	Golaud	Laurent NAOURI
衣裳	クロエ・ランフォード	アルケル	妻屋秀和
Costume Design	Chloé LAMFORD	Arkel	TSUMAYA Hidekazu
照明	ジェイムズ・ファーンコム	ジュヌヴィエーヴ	浜田理恵
Lighting Design	James FARNCOMBE	Geneviève	HAMADA Rie
振付	ジョセフ・アルフォード	イニョルド	九嶋香奈枝
Choreographer	Joseph ALFORD	Yniold	KUSHIMA Kanae
演出補	ジル・リコ	医師	河野鉄平
Revival Director	Gilles RICO	Un médecin	KONO Teppei
舞台監督	高橋尚史		
Stage Manager	TAKAHASHI Naohito		

合唱指揮	富平恭平
Chorus Master	TOMIHIRA Kyohei
合唱	新国立劇場合唱団
Chorus	New National Theatre Chorus
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra

芸術監督	大野和士
Artistic Director	ONO Kazushi

後援: 在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本
 Sous le parrainage de Ambassade de France / Institut français du Japon

共同制作: エクスプロヴァンス音楽祭、ポーランド国立歌劇場
 Co-production with the Festival d'Aix-en-Provence, Teatr Wielki - Polish National Opera

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/pelleas-melisande/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)
 新国立劇場Webボックスオフィス <http://nntt.pia.jp/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* Z席 1,650円: 公演当日朝 10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引、当日学生割引(50%)など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

* 新国立劇場における新型コロナウイルス感染症拡大予防への取り組みと主催公演ご来場の皆様へのお願い
https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html

本公演では、エクサンプロヴァンス音楽祭の舞台写真を告知にご使用いただけます。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】

2016 年エクサンプロヴァンス音楽祭公演より ©Patrick Berger/ArtComPress